



いきいき

小富士っ子



R5学校便り No14

令和5.10.20

四国中央市立
小富士小学校

二宮金次郎像に隠れているものを考えてみた

朝夕は肌寒く、すっかり秋も深まってきました。私は少しダイエットを意識しないといけない感じになっているのですが、「食欲の秋」の誘惑に負けてしまっていると少々反省しているこの頃です。前回の便りでは、この秋は「読書の秋」にでもしてみようかと思っていると言ったものの、残念ながら、思うほど読書ができていません。また、「読書といえば」ということで、真鍋叔郎先生のことを書きましたが、薪を背負い読書する二宮金次郎像が思い浮かぶ方が多いようです。そこで、今回は少し、二宮金次郎について考えてみました。二宮金次郎像は勤労や勤勉の象徴として学校に建てられていました。(小富士小学校にはありません。)しかし、最近は「歩きながら本を読む」ことを助長して危険だからなどの理由で撤去されたり、座って本を読むものに置き換えられたりしているようです。別の問題を指摘する声もあり、その中には、「子どもが働く姿を尊いとする考えはいかがなものか」という意見があります。確かに子どもが働くことには、**子どもの貧困問題**が隠れている場合があるように思います。また、今の考え方なら、二宮金次郎さんは**ヤングケアラー**ということになるかもしれません。**ヤングケアラー**とは「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子ども」としています。実際、金次郎さんは若くして父を亡くしたことで、家計を支えるために働き、幼い弟たちの世話をしています。子どもの家事分担が適正な範囲にあるのか、ヤングケアラーになっているのかの判断は、とてもデリケートで難しいですね。金次郎さんのように働かざるを得なくて勉強する時間が奪われているなら大いに問題があります。しかし、家事を担うことを通して学ぶこともありますし、時間を惜しんで一生懸命に勉学に励むことも素敵です。私たちは「子どもの貧困問題」や「ヤングケアラー」について、もっとしっかり学ぶ必要があるようです。そして、子どもたちが働かなくてもいいように、子どもたちをヤングケアラーにしないために、子どもたちの学びの機会を奪わないために、私たちはどうすべきか、また社会はどうあるべきかを考え、子どもたちのよりよい成長をきちんと支えられる大人になることが大切ですね。



「さらば 昴よ」



早朝のひんやりとした空気は透き通っていて、星空が美しく見えます。4年生は、3学期には冬の星座を学習します。その冬の星座の代表の一つにおうし座があります。そのおうし座の中にプレアデス星団があります。和名を「すばる」と言います。「すばる」は「集まって一つになる」という意味から名付けられたと言われています。小富士小学校の私たちも「すばる」のように集まって一つになれるよう仲間づくりをしています。先日、逝去された谷村新司さんは、歌曲「昴」に「心の命じるままに私は行く」と思いを綴っています。私も自分に正直に人生を歩んでいきたいものです。

ホームページもご覧ください。 <https://kofuji-e.esnet.ed.jp/>